

紙のうせん

KAMIFUSEN No.75

成田市立図書館だより 第75号 2013年（平成25年）3月29日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3 ☎ 0476-27-4646(自動応答)

0476-27-2000(直通)

<http://www.library.city.narita.lg.jp> FAX 0476-27-4641

今は
むかし



新しいサービスが始まりました

パソコン席を予約したい

パソコン席の予約をもっと手軽にできるよう、「座席予約システム」を導入しました。利用カード番号とパスワードがあれば職員の受付を待たずに席の予約ができます。1階インターネットコーナーはもちろん、2階参考資料室にあるデータベース・オフィスパソコンコーナーの座席予約もできます。

インターネットの利用について

受付時間：開館（9:30）から閉館 10 分前まで

利用時間：インターネット… 1 日最大 2 回、合計で 60 分

データベース… 1 日最大 2 回、合計で 120 分

オフィスパソコン… 1 日 1 回、120 分

「予約受取コーナー」 新登場！

正面玄関からすぐのところに、見慣れないガラス張りの部屋が…

ここは、予約した本や CD の受取専用コーナーです。予約した方の利用カードを用意して、入ってみましょう。

受け取り方法

- ① 予約確認機で、用意できている資料を確認しましょう。
利用カードのバーコードをスキャンさせると予約受取レシートが自動で出てきます。
- ② 予約受取レシートと本に挟んであるレシートの番号が同じものが、あなたに用意された資料です。緑の日付札と通番を目印に見つけましょう。
- ③ コーナー内の自動貸出機で借りる手続きをしましょう。
このとき、タイトルが同じでもレシートの番号が違う資料の場合はエラーとなります。同じタイトルの本が並んでいるときには特に注意してください。

※予約確認レシートに「カウンター受取の資料があります」と印字された時は、カウンターへお越しください。

カウンター受取の資料

市外の図書館から借りたもの

大型本・ビデオなど自動貸出機で処理できないもの

その他一部の書庫資料等

パス
予約
で
つ
各サ
個人情報
を行って
申し込み

館内配置図（本館）



パスワード・暗証番号 発行中

予約するときや電話の問い合わせ 聞かれるパスワード・暗証番号 は何？

サービスで、個人の利用状況にかかわるものには、保護のため、パスワードや暗証番号による認証が必要です。利用カードの新規登録・更新の際やおで入手できます。どうぞご利用ください。

1階)

カウンター


席予約システム

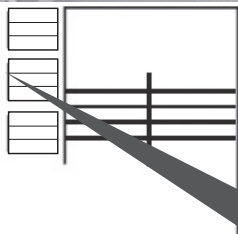
印

受取

ー


入口

 自動貸出機

 OPAC (検索端末)


カウンターを移動しました

 **カウンターの様子が変わっている。返却はどこへ？**


 カウンターには、本の相談・利用登録・貸出・返却・書庫出納の窓口があります。そのうち返却窓口を向かい側に移設し、メインとなるカウンターを縮小しました。

※返却窓口では、返ってきた資料の状態を点検した後に返却処理をします。混雑時は、処理が終わるまでにタイムラグが発生しますが、ご了承ください。

※返却窓口は返却資料の受付専門の窓口です。貸出中の資料の確認や予約のお申し込み、ご質問等は、メインカウンターの窓口でお尋ねください。館内の OPAC でも、手軽に冊数確認ができるようになりました。



 **自動貸出機や検索機も変わったね**

 自動貸出機は、以前の機種から改良を加えた新しいものになりました。操作がわかりやすく、処理ミスが少なくなるよう設計されています。新しい検索機 (OPAC) は、タッチパネル式が4台、キーボード式が7台あります。すべての検索機にバーコードリーダーを取り付け、バーコードをスキャンして簡単に検索や利用状況紹介ができるようになりました。

図書館文学講座

「こうして小説を書いている」

講師：作家 荻原 浩氏

2012.11.11



今年度の文学講座は、作家の荻原浩さんを講師に迎え「こうして小説を書いている」と題してお話いただきました。荻原さんは埼玉県に生まれ、大学卒業後、広告製作会社を経てコピーライターとして独立。1997年『オロロ畑でつかまえて』で小説すばる新人賞、2005年『明日の記憶』で本屋大賞第2位、第18回山本周五郎賞を受賞。若年性アルツハイマーをテーマに発表された『明日の記憶』は、2006年に映画化、また『愛しの座敷わらし』も2012年に映画化され、ともに話題を集めました。

「小説家の働く姿はカッコ悪いのでは？」と語り始める荻原さん。今回の講座では、小説家の仕事について、具体的にはどういうことをしているのかというお話を伺いました。

小説を書き始めるときのことを「大海原を前にしたような気持ちになる」と表現し、一人で好きなようにやれる自由さと、一人ぼっちの孤独な作業の心細さを、時折冗談を交えながら話されました。そこから見えてきたのは、言葉の表現ひとつひとつに真摯に向き合う荻原さんの姿でした。

「小説はもともと嘘なので、細かいところにリアリティを持たせないと全てが嘘になってしまう」と言い、「小説を書くためには、技術的な部分としては五感を働かせること、本質的な部分としては想像力を働かせるということがとても大切で、小説のアイデアは、体と目と耳を動かし続けることで生まれると思う」とも語られました。

また「文章を、自分を飾るアクセサリにはしてはいけない」とも言い、「自慢したり、尊敬を集めたりするための『自分のための小説』では小説として失格であると思う」とのことで、小説を書くときに大切なことは「小説を書くことが楽しいと思うことが一番です」と結ばれました。

編集後記

春は、出会いと別れの季節です。図書館でも旧システムと別れ新システムに変わりました。いろいろ様変わりして新たな発見があったり、旧システムを懐かしがったりと人それぞれとは思いますが、新しい春に出会ってください。

成田市立図書館だより No. 75

発行 成田市

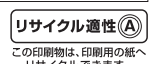
編集 成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

☎0476-27-4646

発行日 2013. 3. 29

登録番号 成教図12-066



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。